

学童保育、オンライン体験に力

「海外旅行」や英語学習を提供



オンラインでのイベントなどを充実させている

シダックスグループ

シダックスグループが学童保育の受託事業を拡大している。子供たちにオンラインで体験できる学びの機会を提供し、海外と日本を結んだイベントなどを実施。英語やプログラミング教育にも力を入れる。受託件数を2023年には4月時点から5割増となる約2000教室とする計画だ。

シダックスグループの学童保育事業はシダックス大新東ヒューマンサービス（東京・渋谷）が受託している。運営する学童保育は食育やSDGs（持続可能な開発目標）などについて楽しみながら学べる時間を充実させているのが特徴だ。



シダックスは学童保育の受託件数を伸ばしている

を開催している。今年の夏休みにはハワイとつなぎハワイの歴史やグルメなどを紹介したという。そのほか、謎解きクリアターの松丸亮吾さんらの協力も得て謎解き動画を作成。各教室のスタッフらも動画進行のアシスタントとして参加するイベントなどを開いた。

シダックス大新東ヒューマンサービスで学童保育事業本部長を務める石

井健治取締役執行役員は「コロナ下でも学童保育での体験を充実させるため、オンラインや動画を取り入れた」と語る。

今後もオンラインの海外旅行や謎解きなど子供たちが体験できるイベントを企画し、楽しみながら学べる時間を充実させる方針だ。石井氏は「学童保育の子どもたちに体験の機会を提供していきたい」と意気込む。

全国学童保育連絡協議会によると、厚生労働省が所管する学童保育施設の民間企業への委託は20年に約3500教室という。同社は4月時点で全体の約4割にあたる1300教室の受託をしている。23年には2000教室の受託を予定する。「アレルギーや発達障害を持った子どもたちに接するための教育研修を行うなど社内の人材研修も強化していく」という。

10月からは社員の講師がリモートで学童保育の先生に対する講習を予定する。冬の時期に流行しやすいとされるノロウイルスへの対応を指導するなど各施設で講習を充実させていく。人材の質を高めることで保護者からの信頼を高める狙いだ。

オンラインは学びの場にも積極的に取り入れる。石井氏は「ICT（情報通信技術）を活用した教育が広がっていることに伴い、学童保育でも遊びながら英会話やプログラミングなどを学べる体験に力を入れたい」としている。共働き世帯の増加で学童保育のニーズが高まるなか、人材と教育に磨きをかけて受託増につなげる。

（片山志乃）